



蕉門考語  
既白編

中村俊定文庫  
文庫 18  
422





















又かのねまき一實は蕉門の風流と号んと思ひ唯天地  
乃造化と仰し一四時の流りときめぬ一人天地  
此靈天地といふ事とちねまき一人こちかも天地人を因相す  
頭のたゞし豆の方ふも自是天地の流るれはかのれうか  
仰もかくもまもぬ一万ありまもも能はるる地はかく  
何と他人の機し字んやまもこれ蕉門也一の奥は  
終日流し終日終くとの深淵とありしや

○古きおといひハ童歌の爲と事よんをけんと云はひハ  
自己の邪見をよめれく天地自是の風流もたしや  
あかきうかのれう河を流るれはまよはうと云と云へ山  
よ登り月をかうやまともう岩洞へ入るれものあらう  
うふく肥く男一とつれう終る終るく人と其は蕉門の  
えいんきかてん

○詞以舊可用情以新爲先と定ぬはみし山谷き  
換骨奪胎の法をきぬる流るれはくといひハ平  
話のわたりみとなきとてあかきう古人のまよと云は



























うさぎのさよ〜  
あ〜  
六のぬ〜

南の香〜

あ〜ん 静さよ 惟然

二がね

え〜

ね〜

ね〜 月

深川

あ〜

ふ〜

あ〜

山

あ〜

いせのま〜



まゝのささきささきささきささきささきささきささきささき  
ささきささきささきささきささきささきささきささき

ささきのささきささきささきささきささきささきささき

ささきささきささきささきささきささきささきささき

ささきささきささきささきささきささきささきささき

ささきささきささきささきささきささきささきささき

ささきささきささきささきささきささきささきささき

ささきささきささきささきささきささきささきささき

ささきの秋ささきささきささきささきささきささきささき

ささきささきささきささきささきささきささきささき

ささきのささきささきささきささきささきささきささき

ささきささきささきささきささきささきささきささき

ささきささきささきささきささきささきささきささき

ささきささきささきささきささきささきささきささき

ささきささきささきささきささきささきささきささき

ささきささきささきささきささきささきささきささき

404

405



♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

○路通きなるの節は——  
♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

一 流の節は——  
♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪

♪♪♪

曲 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪

♪♪♪















ふれ世あまといふれも梅の白と花の紅く申ゆか  
はぬは口惜 花は梅よ好く梅は花よ好くあはれと入  
ぬらうゆゆめゆゆらうと云はれ

白いの花といふ草履をあらは後梅も流涕や久我家の黒方  
梅花の善あ悪く涕をたらやーを牡丹花好くは時何  
わらう津磨良やうーと靴あはれ梅の花の事ト云はれー<sup>二</sup>  
越へ思ふく靴をよめぬーと云はれひのこはらふと云はれ  
俳の序ゆゑ白いの花は梅は時黒方の善性事故業へ

むらうぬあまの肺のは重次おかまぶれと云はれ  
あまの靴くねねといふはやくは美少いよと云はれい  
まやと云はれそのあまの清おまらぬーと云はれおまらぬ  
草鞋の料と云はれ金と云はれ送く種もあまの白草鞋のほと  
流うぬかぬ清もあまのよまらぬといぬれはあまの  
ぬくらうかぬと云はれ金と云はれ送く種もあまの白草鞋  
おまらぬと云はれ金と云はれ送く種もあまの白草鞋の推し  
おまらぬと云はれ金と云はれ送く種もあまの白草鞋の



なふれかく辞一ゆるそとくきそ笑しむ一と  
ふすむし一ゆと人の泥猫を門前のふもも殺やう  
新ひ一ハ一踏 抱あるの命を背まぬはう深切をう  
今お母の形跡人がくまうしよとまひこがめせえくき  
ふまふま 懐くおととら 懐く各酒海青艶色を飲  
他の財を盗とり 盗うれは人のふとをこふりじ  
ふとの幸き 懐くおとんかあうし  
からうは杖突坂をまぬる くれ

○前車の覆を見くねまのいさうふれの誇とまは  
怖の春後を流し一ゆるそとくきそ笑しむ一と  
そまの格ふと一ゆと人の泥猫を門前のふもも殺やう  
とんあかまの金指をうらまふたふらふらふら  
杖は言坂と眠る一ゆるそとくきそ笑しむ一と  
おも一ゆるそとくきそ笑しむ一と  
○そとのまじ業振一ゆるそとくきそ笑しむ一と  
断きおの事一ゆるそとくきそ笑しむ一と



彩々捕せしこれと吐き臭きとらふむね根を  
と中し〜四の舞うくくともよせいほめぬ飲樂ま  
と〜の喜情友〜と彩々の母火ふつちや  
あ〜の泪〜の涙〜の涙〜の涙〜の涙〜  
泣〜の涙〜の涙〜の涙〜の涙〜  
〜

市中深号

ね〜しや〜や〜しり市乃音

既白

と

ね〜しや〜や〜しり市乃音

半仕坊

市井の音

頌云 許由洗耳 巢父牽牛 帰

淡川の狐狸窟を訪〜

越中井波 陸史

い〜しや〜や〜しり市乃音

冬之日まふ尾を訪〜



水仙やさゆらさゆらぬれさる 既白

とて遠さるるその枝折戸 三宅尾

よめふの家の木とよめふの宮あり とう

未野

ふか黄少く條道の三つたて一略 既白

めもぬれなき歌あり一 舟中飯 五葉

ちりちり流るる水の中へおとす 半化坊

さきさき一と枝乃鳥いりおとす 半化坊

去日既白法師を訪ふ

さきさきの杉くわむさる乃あや 倚之

わくわくふ吹神く梅う香 既白

坐る父入も糸と離れぬ所さる 之

歌仙略

まきのけしえ既白法師を訪れく

さきさき花ふさちをと控と ちりちり 洛 松雀

洛留別歌仙



まのあはれ水もき深く蛙 づれ

既白

杖うちろくろくぬ 差中

子風

留まの戸もき風の吹まぬー

蝶巻

ふきれ白く仰ふあや

胡盧

不自由ハ名はの月くあつたれ

竹芽

お若くあつとふきサ秋のもれ

用舟

望ぬりり被へ這入ぬきりくぬ

風

めんくぬくくくハ 浴堂

白

眠くさし通ぬのきくはりぬきり

盧

あつた天幕乃とれぬト言

菱

ま水乃紋く 舌 勢く

舟

結くくくの中ろ 毛 燈

芽

あつた麻も 流すくきれ月

白

秋のあつたき方ろくろくあつ

鳳

掃のあつたあつとあつとあつと

菱

露もんの差あつと色 仙り 吸

盧



おふらぬら半をあらうら

菜

はらりと春風をのゆき

舟

清らかなんまを結糸ふりれき

風

戯場の雛く 襦ろ 籠

白

谷のふれあり白雨くまありや

廬

江戸の叫く 奴こー 物

後

ふちくくくぬかき 猫を喰く

舟

沾券くく家 仔細う 籠

菜

丸まきまあくくまきくちをほき

白

けろくぬいにくるり子 笑

風

直つら子ハ堂の大鶴を撫く

後

歳今くあくく中れすれ 鶴

廬

きれあをあらうら月のめあ

芽

吹まき紙をまき家 水 言

舟

お僕かたれくハ般きをまき

風

昔まきくくくくくくく 乃 宗

白







おつゝも〜思よけあぬの 言れぬれ 八幡 世芝

さ〜や〜世信〜き 後 松 牛車

そお〜人〜と〜を〜

お家〜秋風〜 ちあ せ〜 伊ヤ山田 櫻良

ふ法師〜針〜牛ぬの〜り〜を〜恨

杉あれ〜日を吹も〜せ 秋乃〜 五松

既白法師の 舞臺と〜ら〜こ〜

一年〜二〜ふ〜え〜れ〜舞〜や〜き〜む〜梅 二日坊

一〜ふ〜法師の 東園行脚〜ふ〜

あ〜ふ〜さ〜よ〜お〜ひ〜ま〜ん〜を〜み〜い〜あ〜の 一母

口受 福門

あ〜ふ〜ぬ〜れ〜と〜お〜と〜ん〜は〜ふ〜 半化

以 筆 鳥 秋 心

心〜〜と〜ん〜を〜他〜ふ〜を〜〜を〜

右 二 題 一 章

そ〜ら〜お〜き〜い〜め〜 心 筆 の 中 既 白







